

重要文化的景観選定記念

シンポジウムを開催しました

9月29日(日) 清水文化センターにおいて、重要文化的景観選定記念シンポジウムを開催しました。このシンポジウムでは、蘭島(あらぎ島)と周囲の景観が県内で初めて国の重要文化的景観に選定されるのを機に、重要文化的景観の選定を今後のまちづくりにいかに活用していけばよいのかを話し合いました。

シンポジウムの前半では、重要文化的景観選定地区の価値について概要説明の後、なかしまみねひろ 棚田博士こと中島峰広氏(早稲田大学名誉教授)による記念講演が行われました。この講演では、棚田の文化的な価値がどのように見いだされ、文化的景観を保護する制度が始まったのか、その経過を分かりやすく説明いただきました。

後半のパネルディスカッションでは、既に国の重要文化的景観に選定されている長崎県平戸市や徳島県上勝町で棚田保全やまちづくりにご活躍されている方々をお招きし、活動事例を紹介いただきました。

平戸市では、「景観・交流・食」をキーワードとしたまちづくりが進められており、交流を核としたまちづくりが過疎の進む地域では重要であり、ふるさとの食文化

を見つめ直し、来訪者にもてなす活動が第二の故郷として多くのリピーターを生み出していることや、交流の主役であるふるさとの食をもてなす女性がまちづくりの中心になっているとの紹介がありました。

上勝町では、棚田オーナー制度や草刈りボランティアアとの連携、大学との協働の他、棚田を生産の場としてだけではなく、都市住民との交流の場として活用したり、お米をお酒や加工品として活用する事例が報告されました。

中島先生からは、棚田の保全は地権者だけでは困難であり、旧清水町や現在の有田川町内の有志を募り担い手を確保すること、中山間の組織も含めて一本化し、文化的景観の保全にあたる必要性が指摘されました。

これを受けて、あらぎ島景観保全保存会長の西林さんからは、地域と行政が一体となつて、歴史ある棚田や景観の保存を図りたいとの心強いお言葉がありました。

